

もっと知ろうよICA！ ICAの新事務総長、決る

今回は、インターネットのホームページ (<http://www.archives.ca/ica>) について紹介した。そのホームページの中に、ICAの最新情報を掲載している“*What's New*”というコーナーがある。8月上旬にここを覗いてみたら、『*新事務総長、決る!*』の記事が出ていた。

1996年に北京で開催されたICA大会総会の席上、日本にもきたことのあるチャールズ・ケスケメティ現事務総長が1997年秋に退任することが発表されたのは、まだ記憶に新しい。同時に、新事務総長としてスコットランド国立文書館のジョージ・マッケンジーが選出されたものの、なぜか昨年秋にスコットランド、エジンバラで開催された円卓会議の際して誰も事務総長の交替について話題にしなかった。そして今年4月、突然ICAホームページに、ジョージ・マッケンジーが事務総長就任を断ったので、新たに事務総長候補者を公募する、という記事が掲載された。

それから3ヶ月、7月に更新されたICAの最新情報を掲載している“*What's New*”コーナーに、ようやく新しい事務総長に関する記事が見つかった。新事務局長に内定したのは、現在オランダ・ドルトレク市文書館でICAコミュニケーションディレクターをつとめる、ジョアン・バン・アルバダ氏。6月にパリで開催された選考委員会では、ICA会長王剛氏が総長をつとめ、1998年10月1日をもって現事務総長ケスケメティ氏が退任し、代わってジョアン・バン・アルバダ氏が事務総長に就任することを決定したとのことである。ジョアン・バン・アルバダ氏は、日本ではさほどまだ知名度は高くな

いかかもしれない。しかし、もし皆さんの手元に『*文書館用語集*』（大阪大学出版会、1997）があったら、巻頭2-3頁を見ていただきたい。日本で初の文書館用語集にICAサイドから祝辞を寄せてくれたその人こそが、ジョアン・バン・アルバダ氏なのである。オランダ人は一般に対日感情が良くないが、ジョアン・バン・アルバダ氏に限っては、そのような素振りを見せたことはない。筆者の知る限り、アルバダ氏は気さくでユーモアに富み、誰に対しても公平で親切な人物である。そのためだろうか、全史料協もメンバーとなっているICA/SPAと呼ばれるICAの専門家団体部会の役員としても、非常に人気が高かった。

世界規模の団体であるがために、ICAは宿命的に人種や地域主義と関わらざるを得ない。かつ、ソ連崩壊後の東ヨーロッパの変動は、文書館世界における冷戦時代以来継続してきたヨーロッパ覇権主義を徐々に揺るがしかけている。アジアやアフリカ各国がこれまで享受してきた欧米からの「援助」が東ヨーロッパに向けられていくことに、途上国からの不安は高まっている。このような情勢下で、30年以上の在任のち退任するケスケメティ氏の後を引きうけるジョアン・バン・アルバダ新事務総長には、様々な期待が寄せられるだろう。ICAは一足早く新しい世紀に踏み出すことになるのかもしれない。

☆ICA入会申込はEメールでOKです。

あて先：1006.54@COMPUSERVE.COM

小川千代子（国際資料研究所）